

第 18 期 pES club EBM 実践大会

2019 年 12 月 15 日

JCHO 東京城東病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

目標：診療ガイドラインの評価と推奨文の決定ができる。

課題：国内の診療ガイドラインのうち、妥当でないと思われる推奨文を家で相談しエビデンスに基づいて修正せよ。

進め方（概要）：

- ①世界標準の診療ガイドライン作成方法である GRADE system の概要を理解する (http://spell.umin.jp/EBM_materials_GRADE.html) .
- ②国内の診療ガイドラインを 1 つ取り上げ、妥当でないと思われる推奨文を選ぶ。
- ③その推奨文の作られた根拠を調べ、問題点を抽出する。
- ④エビデンスの質、利益の害とバランス、価値観のばらつき、コストやリソースを考慮して、推奨文を、本来あるべきものに作り直す。
- ⑤元の推奨文と、作り直した過程、最終的に作成した推奨文をまとめ、12 月 10 日（火）までに南郷にメールで提出する。
- ⑥実践大会当日は、元の推奨文にどのような問題があり、どのように作り直したのかについて説明する（制限時間 20 分間）。

ヒント：

- 1) 診療ガイドラインを作成する際は、エビデンスのシステマティックレビューを行った上で推奨を作成することが原則である
- 2) GRADE system を用いて作成された診療ガイドラインには以下のものがある
ARDS 診療ガイドライン 2016 (Part 2)
<https://minds.jcqh.or.jp/n/med/4/med0241/G0000890>
ANCA 関連血管炎診療ガイドライン 2017
<https://minds.jcqh.or.jp/n/med/4/med0094/G0000931>
パーキンソン病診療ガイドライン 2018
<https://minds.jcqh.or.jp/n/med/4/med0088/G0001072>
てんかん診療ガイドライン 2018
<https://minds.jcqh.or.jp/n/med/4/med0116/G0001052>
注) 上記の診療ガイドラインは本課題の対象に当たらない
- 3) 推奨を修正するに当たり、自分たちで厳密にシステマティックレビューを行うのは困難と思われるので、既存のものを用いても良い
- 4) 場合によっては、同じテーマの海外の診療ガイドラインが参考になるかも知れない
- 5) 実践大会当日の発表の方法は自由である

EBM 実践大会は、pES club で 1 年間 EBM を学んだ集大成となるものである。これまでに学んだことすべてを活用して取り組むこと。課題を進める上で不明な点、困ったことなどが生じた場合には、早めに Slack 上か、南郷に直接メールで質問すること。

家獲得ポイントの計算は

現役生の評点の平均×50+OB/OG 講師陣の評点の平均×100

とする。